

物價調節ノ必要

河上 肇

左ニ抄録スル所ノモノハあすこんしん大學總長 Van Hise 氏ガ昨年十一月發行ノ The Annals of the American Academy of Political and Social Science (vol. LXXIV, no. 153.) ニ掲載セシ「戰時ニ於ケル物價調節ノ必要」ト題セシ一文ノ要旨デアアル。事專ラ米國ニ係レドモ、大體ニ於テ我國ノ近狀ト異ラザルヲ以テ、試ニ譯出シテ讀者ノ參考ニ供ス。*

一、最近二箇年間ニ於ケル物價ノ暴騰

一八九七年以來最近十數年間ニ亘リテ、米國ノ物價ハ騰貴ノ一方ニ在リタレドモ、世界戰爭ノ勃發ハ、初メ商業取引ノ不安定ヲ招キタル爲メ、一時ハ一般ニ物價ノ騰貴ヲ抑制シ、或貨物ノ價格ノ如キハ却テ下落シタノデアツタ。ソレヨリ物價ガ再ビ騰貴ノ傾向ヲ有スルニ至リタルハ、戰亂勃發ヨリ約一ケ年ヲ經タル後ノコトデアアル。但シ當初ハ大多數ノ貨物ヲ通ジテ其騰貴ハ寧ロ輕微デアツタ。一般物價ガ愈々暴騰ノ勢ヲ呈スルニ至リタルハ、其ヨリ後ノコトデアアル。

尤モ小麦及ビ小麦粉ノ價格ハ初メヨリ例外ニシテ、專ラ騰貴ノ一方デアツタ。

開戦後滿一ケ年ナル一九一五年七月現在ノ重要商品ノ卸賣價格ハ、前年ノ同月ニ比シ殆ド凡テヲ通ジテ騰貴シ、中ニハ二倍ニ騰貴シタモノモアツタ。然ルニ開戦後滿二ケ年ナル一九一六年七月ニ至ツテハ、最も重要ナル商品ノ卸賣價格ハ、前々年ノ同月ニ比シ實ニ五割乃至四倍ノ暴騰ヲ示シタ。而シテ斯カル暴騰ノ勢ハ、其後猶引續キ今日ニ至ルマテ毫モ停止スル所ナリ、現ニ一九一六年八月一日ノ價格ヲバ一年後ノ一九一七年八月ノ價格ニ比較スルニ、重要生活品ノ價格ハ此一年間ニ於テモ、左表ニ示スガ如ク殆ンド皆倍以上ノ騰貴ヲ示シテ居ルノデアアル。

小麦 (一ぶつせるニ付キ)	一九一六年	一九一七年
玉蜀黍 (同上)	一〇・一	二二・九
裸麥 (同上)	五・九	一六・六
ライ麥 (同上)	五・四	二四・五
白馬鈴薯 (同上)	九・四	一七・一
棉花 (一封度ニ付キ)	二・六	一〇・八

此ノ如キ一般貨物ノ未曾有ナル暴騰ハ、消費

* 本文脱稿後前月發行ノ『國家學會雜誌』ニ糸井法學士ノ『北米ニ於ケル物價調節論』ノ掲載サレアルヲ知レリ。同シ原文ノ抄譯ナレドモ、拙稿ト相違シ居ル點少カラザルガ故ニ、重複ヲ厭ハズ、ソノママ茲ニ掲載ス。

者殊ニ月給又ハ勞賃ニ衣食セル消費者ニ對シテ、非常ナル負擔ヲ課セルモノニテ、即チ國民ノ多大數ハ之ガ爲メニ苦シメラレツツアルノデアル。勿論勞働者ノ勞賃モ同時ニ騰貴シタ、中ニハ騰貴ニ騰貴ヲ重ネタモノモアル。併シ其騰貴ノ率ハ二割五分以上又ハ多クトモ五割以上ニ達シタノハ稀デアル。從ツテ多少ノ收入増加アリタル者ニテモ、之ニ依リテ物價ノ暴騰ヨリ生ゼシ困難ヲ免レ得タル者ハ稀デアル。カクテ中産階級以下ノ人々ハ、今日非常ナル困難ニ陥ツテ居ル。之ガ救濟策ガ目下ノ一大問題ト爲リツラアルモ當然ノコトデアル。

二、物價暴騰ノ原因

扱テ此ノ如キ諸物價暴騰ノ原因ハ果シテ那邊ニ在リヤト云フニ、凡テノ重要商品ニ對シ海外ヨリ異常ノ需要起リシコト根本原因ノ一ナルニ相違ナシ。乍併コハ只ソノ一要件タルニ過ギナイ。

重要商品ニ對シ一タビ供給不足ノ聲起ルヤ、凡テ其等貨物ノ需要者ハ、將來ノ騰貴ヲ見越シ、

現在ノ必要以上ニ買ヒ進ムモノデアル。例ヘバ小麥粉、砂糖ノ如キハ、其價格如何ニ拘ラズ、將來引續キ是非入用ノモノナルガ故、人々ハ餘裕アルニ從ウテ之ヲ買ヒ貯ヘ置クノデアル。之ヲ石炭ニ就テ見ルモ、一九一七年ノ春ヨリ夏ニカケテ、品不足ノ見込立ツヤ、多クノ工業家ハ冬期ヲ通ジテ差支ナキマデノ分量ヲ買ヒ込マントセシモノニテ、普通ノ消費者ニテモ、餘裕アル者ハ、冬期ノ暖爐用ノ爲メ、一時ニ買ヒ進ンダモノデアル。此ノ如キ原因ヨリ、供給ハ不足セルニ、需要ハ平生ニ比シ却テ激増セシコト、コレ物價暴騰ノ勢力ヲ助成セン原因デアル。

消費者ノ買ヒ進ミヨリモ猶有力ナル原因トナリシモノハ、投機者ノ買ヒ占メデアル。諸物價騰貴ノ勢ヲ示ス時ハ、成ルベク多量ニ之ヲ買ヒ占メ置キ、應テ其ノ騰貴ノ甚シキニ及ビ、之ヲ轉賣シテ巨利ヲ博セントスル者頻出スル道理デアルガ、現ニ此種ノ買ヒ占メハ、凡テノ重要商品ニ對シ廣ク全國ニ亘リテ行ハレタモノデアル。

猶事情上ノ如キ場合ニ於テハ、特定ノ地方ニ

於テ一定ノ事業ニ從事セル同業者ハ、組合ノ申合セニ依リ、原料ノ騰貴ナドヲ理由トシテ、其商品ノ賣價ヲ値上ゲスルコトガ甚ダ容易デア
ル。此種ノ事モ、多數ノ商品ニ對シ、廣キ範圍ニ亘ツテ既ニ實行サレタコトデア
ル。

扱テ以上述べタルガ如キ第一、第二、第三、第四ノ事情ハ、今日相俟ツテ次第ニ物價ヲ騰貴セシメツツアルモノデア
ル。而シテ一旦上記ノ傾向ニシテ發生センカ、其傾向ハ次第ニ緊進ノ勢ヲ得、殆ド停止スル所ヲ知ラザルニ至ルモノニテ、例ヘバ食料品ノ價格ニシテ騰貴センカ、企業者ハ勞働者ノ勞賃ヲ増加セザルベカラズ、又原料ノ價格ニシテ騰貴センカ、企業者ハ原料及ビ勞賃ノ騰貴ノ爲メ其製品ノ價格ヲ高メザルベカラズ、此ノ如クニシテ價格ノ騰貴ハ諸般ノ貨物ニ波及スルモノナルガ、其度毎ニ、價格ノ騰貴ハ實際ノ費用ノ増加ヲ價フ以上ニ實現セラレ、カクテ價格ノ騰貴一循環シテハ、更ニ食料品ノ價格騰貴アリテ第二ノ循環ヲ始メ、此ノ如クニシテ物價ノ騰貴ハ加速度ヲ以テ進ミ、

法外ノ暴騰ヲ實現スルニ至ルモノデア
ル。

三、需要供給ノ法則ノ無力トナリシコト

以上述べシ所ニ依ツテ明カナルガ如ク、今日ハ凡テノ重要商品ニ對スル需要ガ遙ニ其ノ供給ヲ超過シタト云フ唯一ノ理由ノ爲メニ、需要供給及ビ競争ノ法則ガ物價ヲ制御スルノ力ヲ失ヒシ時代デア
ル。戰前普通ノ狀態ニ在リテハ、殆ド凡ラノ重要商品ニ對スル米國ノ供給能力ハ、國內ノ需要ヲ充シテ餘リアリシモノデア
ル。農産物ハ勿論、石炭ノ産額等モ、年々國內ノ需要ヲ充シテ猶ソノ上ニ之ヲ海外ニ輸出スルノ餘力ヲ有シ、鋼鐵類ノ生産モ、啻ニ平時ノ需要ニ應ジ得ルノミナラズ、何時不意ノ需要起ルモ、直ニ之ニ應ジ得ルダケノ能力ヲ有セシモノデア
ル。從ツテ諸種ノ貨物ノ價格ハ、政府ガ特別ノ干渉ヲ爲サズトモ、需要供給ノ法則ニ依リテ自ラ一定ノ制御ヲ受ケシモノデア
ル。然ルニ、今回ノ世界戦争ニ依リテ、事情ハ全ク一變シテ來テ、食料品、石炭、鋼鐵類ノ需要ハ遙ニ其供給ヲ超過シ來タ。價格ハ甚シク騰貴

シタレドモ、其價格ニテモ、應ジ切レザルホドノ需要ガ引續キ引續キ起ツテ居ルノデアル。尤モノノ需要ノ超過ハ左マデ大ナルモノデハ無イ。固ヨリ之ニ關シ正確ナル計數ヲ舉グルコトハ困難ナレドモ、恐ラタ平均ニ割以下デアツテ、如何ナル貨物ニ就テ言フモ三割乃至四割以上ニ上レルモノハ有ルマイ。乍併、コノ平均ニ割内外ノ需要超過ハ、前ニ述ベタル諸種ノ買占等ニ依リテ、多數重要商品ノ價格ヲバ、二倍、三倍、四倍、五倍ニシ、或種ノ貨物ノ價格ハ、更ニソレ以上ニ騰貴セシメタノデアル。思フニ這箇ノ需要超過ハ、近キ將來ニ於テ決シテ遞減スベキ見込ナク、恐ラクハ却テ益々増加スルニ至ルコトデアラウ。

四、驚クベキ法外ノ利得

上ニ述ベタルガ如キ事情ノ下ニ於テ、重要商品ヲ取扱ヒツツアル大會社ガ法外ノ利得ヲ爲セシハ、避クベカラザルコトデアル。思フニ現戰爭ニ本ク不時ノ利得ノ如キハ、有史以來未ダ嘗テ有ラザル所デアル。

假ニ戰時ニ於ケル利潤ガ戰前ノ平時ニ於ケル利潤ニ超過セシ部分ヲ『超過利潤』ト名ケンニ、斯カル超過利潤ハ、穀物ノミニテ最近一年間ニ十億弗以上ニシテ、恐ラクハ二十億弗ニモ達シタデアラウ。次ニ肉類ニ就テ見ルニ、近頃上院ノ財政委員會ニ報告サレタル所ニ依レバ、しかびノ四大鑛諸會社ノ超過利潤（一九一六年度ノ利潤ガ一九一四年度ノソレニ超過セル額）ノミニテ、二千八百萬弗ニ及ブ。又上院議員しもんす氏が議會ニ報告セシ所ニ依レバ、某々ノ五大金屬工業會社ノ超過利潤ハ、同ジ期間ニ於テ三千八百八十餘萬弗ニ達シ、又紐育ナルすたんだト石油會社ノソレハ、二千四十餘萬圓ニ上ツテ居ル。其他此ノ如キ法外ナル超過利潤ヲ得ツツアル者ハ、其例枚擧ニ遑アラザル次第デアル。

『以上記述セシ事實ハ、戰時ノ狀態ニ應ズルガ爲メニハ、吾人ハ到底需要供給及ビ競争ノ法則ニ依頼スル能ハザルコトヲ、最モ明白ニ立證スルモノデアル。物價及ビ利潤ヲ正當ノ點ニ引キ下グル爲メノ唯一可能ノ方法トシテハ、只政府ノ行爲アルノミデアル。』